

真宗學

第 122 號

-
- 『入出二門偈』における五念門行の主体について
.....井 上 善 幸
- 『略論安樂淨土義』の思想背景—仏智疑惑について
.....高 田 文 英
- 『淨土三經往生文類』に示される往生山 崎 淳 大
- Shin Buddhist Ecology: Grounded upon Tension
between the Actual and IdealMistuya Dake
- 記念講演「信の動態」安 富 信 哉
-

平成 22 年 3 月

龍谷大學 真宗學會

目次

- 『入出二門偈』における五念門行の主体について……………井上善幸(一)
- 『略論安楽浄土義』の思想背景―仏智疑惑について……………高田文英(三)
- 『浄土三経往生文類』に示される往生……………山崎淳大(罫)
- Shin Buddhist Ecology: Grounded upon Tension
between the Actual and Ideal……………Mistuya Dake (1)
- 記念講演「信の動態」……………安富信哉(14)
- 平成二十一年度真宗学講義題目一覧……………(六九)
- 平成二十年度真宗学修士論文・卒業論文題目一覧……………(七三)
- 真宗学消息……………(七六)
- 編集後記……………(九四)

平成二十一年度真宗学講義題目

大学院

○真宗学特殊研究

- A・親鸞聖人編『西方指南抄』の研究(M) 杉岡 孝紀
- B・親鸞聖人編『西方指南抄』の研究(M) 杉岡 孝紀
- A・大乘浄土教における中観・唯識の受容と思想的意義
―龍樹・世親・曇鸞・道綽―(1)(M・D) 武田 龍精

- B・大乘浄土教における中観・唯識の受容と思想的意義
―龍樹・世親・曇鸞・道綽―(2)(M・D) 武田 龍精

- A・真俗二諦論の研究I(M・D) 龍溪 章雄
- B・真俗二諦論の研究II(M・D) 龍溪 章雄
- A・親鸞浄土教の比較研究(M・D) ヒロタ デニス
- B・親鸞浄土教の比較研究(M・D) ヒロタ デニス
- A・近代親鸞研究批判(M) 蒿 満也

○真宗教学史特殊研究

- A・蓮如教学の研究(M・D) 林 智康
- B・蓮如教学の研究(M・D) 林 智康
- 浄土教理史特殊研究
A・廬山慧遠の研究(M・D) 大田 利生

○真宗学演習

- B・廬山慧遠の研究(M・D) 大田 利生
- A・「選択集」の浄土教理史的考察 藤堂 俊英
- B・「逆修説法」の浄土教理史的考察 藤堂 俊英

○親鸞浄土教と現代(M・D)

ヒロタ デニス

○真宗伝道学演習

- 「頭浄土真実教行証文類」(M・D) 龍溪 章雄

○真宗教学史演習

- 「化身土文類」の基礎的研究(M・D) 川添 泰信

○真宗教学史演習

- 存覚教学の研究―『六要鈔』―(M・D) 林 智康

- 真宗教学の諸問題―真宗百論題の研究―(M・D) 内藤 知康

○浄土教理史演習

- 無量寿経諸本の比較研究(M・D) 大田 利生

○真宗学文献研究

- A・「親鸞著作を読む」原文と英訳(M) ヒロタ デニス
- B・「親鸞著作を読む」原文と英訳(M) ヒロタ デニス
- A・「教行信証義例」(M) 井上 善幸
- B・「教行信証義例」(M) 井上 善幸
- A・「教行信証」信巻の思想I(M) 鍋島 直樹
- B・「教行信証」信巻の思想II(M) 鍋島 直樹
- A・「浄土三経往生文類」の読解(M) 殿内 恒
- B・「浄土三経往生文類」の読解(M) 殿内 恒
- A・親鸞思想における信(M) 玉木 興慈

B・親鸞思想における信(M) 玉木 興慈

A・『教行信証』の書誌的研究(上)(M) 武田 晋

B・『教行信証』の書誌的研究(下)(M) 武田 晋

A・『往生論註』の構造と下巻の内容(M) 深川 宣暢

B・『往生論註』下巻の要義(M) 深川 宣暢

○伝道学特殊研究

A・医療・看護・福祉の諸課題と宗教(M) 田畑 正久

B・医療と宗教の協力関係について(M) 田畑 正久

A・蓮如上人とその教学にみる真宗伝道論(M) 清岡 隆文

文学部真宗学科

真宗学概論A 釈尊の仏教から親鸞へ

—その教えの極まり— 大田 利生

浄土教理史 親鸞浄土教の背景 川添 泰信

真宗教学史 『歎異抄』・覚如上人・存覚上人・蓮如上人の教学と江戸宗学 林 智康

真宗教学史 親鸞思想解釈史の批判的概説 龍溪 章雄

浄土教聖典学概論 浄土教聖典の成立と展開 深川 宣暢

真宗聖典学概論 親鸞・覚如・存覚・蓮如の説き 貫名 讓

示した教え 貫名 讓

真宗聖典学概論 宗祖と列祖の著述を学ぶ 牧野 仁

浄土教概論 法然とその門下の浄土教 武田 晋

真宗伝道学 現代における真宗信仰の復興を目指して

教理史特殊講義

A・人間救済の諸相—韓国仏教史と新羅・元暁の浄土思想を中心として—

B・曇鸞『往生論註』の研究 藤 能成

—その思想と親鸞への展開—

教学史特殊講義

A・念仏者の行業論—伝道学の視点から— 葛野 洋明

教義学特殊講義

A・曇鸞教学の基礎的研究 川添 泰信

B・信心とその利益 打本 未来

C・親鸞の往生浄土思想—思想的背景—

歴史的経緯・現代的意義— 武田 慶之

伝道学特殊講義

A・『御文章』の研究 清岡 隆文

B・宗教と医療・看護・福祉の関係の諸問題 田畑 正久

C・真宗念仏者における聞法と伝道—仏教とカウンセリングの交流を契機として— 吾勝 常行

真宗学特殊講義

A・親鸞の往生浄土思想—思想的背景—

歴史的経緯・現代的意義— 武田 慶之

教理史講読

A・『一念多念文意』を読む—原文と英訳—

ヒロタ デニス

B・『往生要集』を読む 高田 文英

C・『選択本願念仏集』を読む 佐々木 寛爾

教学史講読

A・『蓮如上人御一代記聞書』に学ぶ宗教的眞実性 藤 能成

B・存覚『浄土眞要鈔』の講読 渡邊 了生

教義学講読

A・『教行信証』(上) (教巻・行巻・信巻) 深川 宣暢

B・『教行信証』(下) 証巻、眞仏土巻、 方便化身土巻の講読 藤 能成

C・『恵信尼文書』の視覚的読解 安藤 章仁

D・親鸞の手紙を英訳で読む 那須 英勝

E・一念多念証文(一念多念文類) 貫名 謙

伝道学講読

A・『御伝鈔』を読みながら伝道を考える 清岡 隆文

B・『三帖和讃』を読み解く 吾勝 常行

C・伝道学の視点から『御文章』を読む 葛野 洋明

眞宗学講読

A・『教行信証』(下) 証巻、眞仏土巻、 方便化身土巻の講読 藤 能成

眞宗学基礎演習I

井上善幸・原田哲了・高田文英・那須英勝・藤能成

眞宗学基礎演習II

井上善幸・原田哲了・高田文英・那須英勝・藤能成

を学ぶ

を学ぶ

を学ぶ

を学ぶ

井上善幸・玉木興慈・原田哲了・那須英勝・高田文英
教理史演習I

(ア)浄土教理史と親鸞教義の基礎的研究

(イ)曇鸞浄土教の特色 川添 泰信

(ウ) (休講) 殿内 恒

教学史演習I

(ア)覚如上人の教学と伝道 林 智康

(イ)往生思想の解釈をめぐる諸問題 龍溪 章雄

教義学演習

(ア)浄土三部経と親鸞 大田 利生

(イ)親鸞教義の研究 内藤 知康

(ウ)『高僧和讃』を読む 井上 善幸

伝道学演習I

(ア)眞宗伝道の基礎的研究 深川 宣暢

(イ)親鸞思想に基づく人間理解の探求 鍋島 直樹

(ウ)卒業論文(教理史演習II) 大田 利生

(イ)浄土教理史と眞宗教義および安心 深川 宣暢

(ウ) (休講)

卒業論文(教学史演習II)

(ア)眞宗教学史の基礎的研究 川添 泰信

(イ)卒業論文(教義学演習II) 玉木 興慈

(ウ)眞宗教義の諸問題 内藤 知康

(1) 真宗学の諸問題

龍溪 章雄

(2) 真宗学の諸問題

杉岡 孝紀

卒業論文(伝道学演習II)

(7) 真宗教学と伝道

林 智康

(1) 蓮如上人の御文章を読む

武田 晋

真宗学概論B 真宗を学問として学ぶ

玉木 興慈

布教伝道論I 真宗における布教伝道の位相

吾勝 常行

布教伝道論II 相談伝道の理論的考察と実践方法

吾勝 常行

真宗教団史 真宗教団の歴史と展開

原田 宗司

共生論 (休講)

情報科目

教義学講読C 『恵信尼文書』の視覚的読解 安藤 章仁

文書伝道論I インターネット社会における文書伝道I 原田 宗司

文書伝道論II インターネット社会における文書伝道II 原田 宗司

社会人特別コース開講科目

真宗学基礎演習I 真宗入門 原田 哲了

真宗学基礎演習II 真宗入門 原田 哲了

真宗学演習I 親鸞思想の諸問題

—和語聖教を中心として—

武田 晋

卒業論文(真宗学演習II) 親鸞思想の諸問題

—和語聖教を中心として—

武田 晋

真宗学概論A (休講)

真宗聖典学概論 宗祖と列祖の著述を学ぶ 牧野 仁

浄土教理史 (休講)

真宗教学史 親鸞思想解釈史の批判的概説 龍溪 章雄

真宗学特殊講義A 親鸞の往生浄土思想

—思想的背景・歴史の経緯・現代的意義— 武田 慶之

真宗学講読A 『教行信証』(下)証巻、真仏土巻、方便化身土巻の講読

藤 能成

平成二十年度 真宗学修士論文・卒業論文題目一覧

論文題目

姓名

大学院修士論文

真宗における伝道についての一考察

岩田 紘昭

親鸞における阿闍世王説話の意義

藤澤 正志

浄土真宗の救い

都路 初子

—主として『教行信証』の比喩と物語を通して—

親鸞における一乗思想の研究

赤井 法頭

善養素雲における本尊義の研究

有馬 慶人

—「浄土真宗本尊顕正義」を中心として—

親鸞浄土教における回向の問題

石川 真也

北海道開教史の基礎的研究

上本 周作

—西本願寺教団を中心として—

真仏弟子論の研究

小笠原 聡

親鸞の外教観

金児 正尊

真宗における罪惡観の展開

紫雲 龍教

—懺悔から慚愧への深まり—

現代における親鸞思想の意義と人間の諸相考察

白石 明子

顕浄土方便化身土文類の研究

城 龍紹

タノムタスケタマへの研究

多田 専宗

—多田専浄を中心に—

親鸞における利益の問題

親鸞における人間観の研究

『往生論註』における浄土観の一考察

親鸞の浄土

三願転入の研究

五念門の研究

疊鸞・親鸞における他力思想の一考察

—他利利他を通じて—

善導大師の仏道

—法門顕示とその姿勢—

真宗における求道論

三業惑乱教学的研究

仏教共生学の研究

文学部卒業論文

親鸞の生死観

親鸞聖人の信心

親鸞聖人とその教え

—御消息を中心として—

寺西 孝純

永井 剛

長坂 大普

藤本 智彰

堀川 宗峰

真名子晃征

源 裕樹

佐々木悟朗

善利 潤

西原 法興

松原 要

朝倉 恵昌

朝倉 淳也

天野 智

真宗におけるカウケンセリグの一考察

天谷 智童

悪人正機と現代での宗教認識

川口 弘次

現代の浄土真宗の伝道の在り方

石井 健志

真宗教学の六字釈

木村 晋輔

隠れ念仏の研究

石川 華

浄土往生の主体についての一考察

清原 唯信

—薩摩・人吉の地を中心に—

石丸 涼道

親鸞の人間観

九鬼 敦

悪人正機の研究

井上健太郎

二十二願文解釈の教理史的展開

釘貫 順

善鸞義絶事件についての一考察

井上 宗順

親鸞の「自然法爾」観

草薙 秀央

親鸞聖人の教法表現

巖 教亞

蓮如の伝道

楠 哲教

北陸における蓮如説話の受容

岩本 亮輔

石泉僧叡師の行信論

楠 誓祐

善導大師の観経観の一考察

臺 正亮

—信理解を中心として—

楠 宏樹

親鸞聖人「御消息」の研究

大内 芳隆

親鸞の往生思想

國香 彰子

—特に善鸞義絶を中心として—

大江 智承

親鸞の阿弥陀仏観

熊谷 了淳

親鸞の証果論について

太田めぐみ

浄土について

小寺 秀徳

真宗における生死観の一考察

大山 道信

真宗における後生について

小林 賢司

親鸞の往生思想について

岡部 哲應

現代社会と浄土真宗

小林 雅卓

—生因三願から考える—

尾ヶ井景子

親鸞消息の研究

小松 正宣

親鸞の信心心理について

勝枝 景祐

「観経」解釈における善導と諸師の比較

後藤 泰裕

真宗におけるカウケンセリグの一考察

加藤 学

平安仏教の造像に見る末法思想

澤田 望

人吉球磨の隠れ念仏について

南無阿弥陀仏とは

親鸞における信の一考察

篠原みほ子

仏説観無量寿経の三心に関する浄影寺慧遠と善導の解釈

西国真宗進出

悪人正機説の一考察

白松 青爾

恵信尼公の研究

鹿浦 法之

浄土真宗の伝道

季平 祐也

現代社会における命の問題と浄土真宗における命

辛嶋 祐信

親鸞における謗法の往生観

杉田 了

親鸞聖人の自力・他力観

末本 匡徳

南無阿弥陀仏とは

相 俊道

『御文章』の研究

親鸞における女人往生の研究

六字釈について

現代における死と救い

現代人と浄土真宗

「頭浄土方便化身土文類」と他力回向義

親鸞の浄土観

親鸞の他力思想と人間観

「三一問答」の研究

親鸞の厭欣観

法然と親鸞の教え

一向一揆の研究

親鸞における還相回向について

「歎異抄」における悪人正機

本願寺における蓮如の伝道方法

浄土真宗と平和

蓮如と一向一揆

現代における真宗の意義の一考察

善導教学から親鸞教義への展開

真宗の神祇観

妙好人 浅原才市の一考察

いのちを生きる

現代社会における浄土真宗

名号論についての一考察

鈴木 将弘

瀨形 直

園田 啓太

祖父江 唯

高川 玄成

武末 直也

竹林 景潤

龍尾 崇

玉木 興隆

丹宮 教信

醍醐 秀貴

近安 真紀

千羽 顕信

坪井 竜樹

寺井 匠

照山 唯彰

富樫 悠典

時森 和之

秃川 尊法

富澤慎一郎

内藤 良誠

中川さよ子

仲邑 貴也

中山 光信

二種深信について

浄土真宗における伝道の考察

「真実生きる」とは

— 建学の精神にみる —

親鸞の浄土三部経観

真宗とカウンセリング

親鸞と隆寛における法然教学の受容

— 生因三願観を中心として —

六字釈義

妙好人才市の研究

— 生涯と信心獲得 —

往還二回向について

蓮如の女人往生に関する一考察

真宗における他力の一考察

現代真宗伝道考

— 親鸞・蓮如の伝道を中心として —

真宗における社会活動について

往生浄土観

真宗とカウンセリング

初期の真宗教団論

親鸞の共生観

浄土真宗における生命観

浄土真宗の人間像

— 妙好人をめぐって —

中山 崇信

長尾 光雲

長岡 俊也

永田 弘彰

成澤 一行

南條 了瑛

西浦 綾香

西島 誓雲

法 祐峰

橋本おら

長谷 光海

花田 暁子

林 基世

原田 淳一

原田 弘道

樋口 純也

平井 孝浩

廣澤 光寿

深川 行暢

親鸞聖人の死生観

— 撰取不捨の教育を求めて —

宗教教育について

親鸞における言語表現の一考察

生死観

— 釈尊・親鸞・現代 —

真宗における信心の一考察

親鸞の信心と念仏

真俗二諦論の展開

真宗における浄土観について

親鸞聖人の教えと現代

六字釈義について

仏教における女性観

— 女人往生の成立背景について —

「義なきを義とす」考

道綽浄土教と三階教

— 約時被機をめぐって —

親鸞における罪惡思想

親鸞聖人における念仏観

— 歎異抄を中心として —

親鸞聖人の人間観

救いについて

親鸞の言語観

曇鸞の浄土思想

藤井 顕子

— 般若と方便を中心にして —
死について

藤井 正顕

藤岡恵利子

藤岡 清貴

藤瀬 和亮

藤谷 永寿

藤本 弘信

松谷 教生

松永詩央里

丸岡 信水

水尾 恵梨

水杉 唯可

水野 正幸

三宅 真教

三和真美子

村岡 絵里

柳原 正行

山口 祥

山田 正顕

山名 諒子

山本 真吉

山本 龍法

寄気 恵仁

渡邊 崇成

和田 芳樹

瀨口 隆子

赤沼智枝子

井手みなみ

小畑 奈緒

建口 香苗

田中美由紀

谷 實照

中島 唯

春永 佳波

藤雄 唯心

藤本 知恵

星野 裕樹

前田 育香

前花 澄香

親鸞の生と死

真宗における悪人正機の考察

『往生論註』における真実功德相の考察

石山合戦における門徒のあり方

— 紀州門徒団に学ぶ —

親鸞聖人の伝道に関する諸説

自殺に関する一考察

親鸞の罪惡観

『観無量寿経』の一考察

— 韋提希と阿闍世の苦惱と救い —

真宗とビハハラ

浄土真宗における女性観

浄土真宗における死の問題

仏教と差別

仏教におけるカウンセリングについて

真宗における安心という用語

真宗における寺院の意義

親鸞聖人の生と死について

歎異抄における浄土観

仏教保育について

『歎異抄』における悪人正機の研究

真宗における社会福祉

仏教福祉について

真宗における宗教的情操教育の一考察

現代における伝道の可能性

浄土真宗と現代思想

— 現生正定聚とニヒリズム —

歎異抄における親鸞聖人の教え

親鸞における現生正定聚の研究

真宗と平和

現代人の宗教心

親鸞聖人の人間観

他力回向論の研究

真宗における葬儀に関しての一考察

阿弥陀仏論

念仏者の生活と実践

村上 泰然

森村 恭子

山崎 真実

渡邊真智子

平野 将庸

乾井 和軌

梅園 玄昭

川西 寛

田川 豪信

豊嶋 良隆

山出 晃大

藤井 正因

藤井 憲史

高森 潤昭

野々村昭範

真宗学会消息

平成二十一年度 真宗学会理事会・運営協議会

第一回龍谷大学真宗学会運営協議会

平成二十一年六月四日(木) 十二時二十分より

西饗二階大会議室にて

一、学会長挨拶 大田 利生先生

一、議長団選出

議長 栗原 直子 (博士二回)

副議長 平井 幸太郎 (博士三回)

副議長 紫雲 龍教 (博士一回)

書記 藤井 顕子 (修士一回)

書記 東光 真法香 (学部四回)

一、自己紹介

一、役員の変更について(井上善幸先生)

一、平成二十年年度決算 (井上善幸先生)

一、平成二十一年度予算(井上善幸先生)

一、各委員会活動予定について

(一) 編集委員会(武末直也)

・『真宗学科学生論文集』第一四号発行について

・『真宗学』第二二一号、第二二三号発行について

(二) 研究委員会(和田芳樹)

・真宗学会研究発表会について

・卒業論文中間発表について

・第六十三回真宗学会大会について

(三) 親睦委員会(藤井顕子)

・学会研修の予定について

(四) 庶務委員会(川元恵史)

・学会費の徴収・管理・運営について

一、その他

・真宗学会ホームページについて(溪英俊)

・真宗学合同研究室に関して(紫雲龍教)

理事会

平成二十一年度十一月十日(火) 十二時十五分より

清和館三階ホールにて

一、平成二十年年度決算 (井上善幸先生)

一、平成二十一年度予算(井上善幸先生)

一、役員の変更について(井上善幸先生)

・理事の退任

矢田了章氏 龍谷大学

武田龍精氏 龍谷大学

マルティン・レップ氏 龍谷大学

藤 能成氏 九州龍谷短期大学

・評議員の退任

深川宣暢氏 龍谷大学

那須英勝氏 米国仏教大学院 (IBS)

新井俊一氏 相愛女子短期大学

・理事の就任

深川宣暢氏 龍谷大学 教授

那須英勝氏 龍谷大学 教授

後藤明信氏 九州龍谷短期大学 教授

・評議員の就任

高田文英氏 龍谷大学 講師

藤 能成氏 龍谷大学 教授

清岡隆文氏 龍谷大学 教授

田畑正久氏 龍谷大学 教授

吾勝常行氏 龍谷大学 教授

葛野洋明氏 龍谷大学 教授

一、来年度の学会大会について

・平成二十二年十一月九日(火)開催予定

一、その他

(報告 議長 栗原直子)

編集委員会報告

平成二十一年度

・四月二十一日 『真宗学』第一一九・一二〇合併号配布開始

始

・四月三十日 『真宗学科学学生論集』原稿校正

・五月十八日 真宗学資料室・整理、『真宗学』残部集計

・六月二十二日 『真宗学科学学生論集』配布開始

・九月下旬 第一回編集委員会議

・一月十日 第六十三回真宗学会大会記念講演収録

・二月上旬 第二回編集委員会議

・一二月下旬 『真宗学』第一二二号、永田文昌堂へ原稿

提出開始

・一月下旬 『真宗学』第一二二号、永田文昌堂へ原稿

提出開始

・二月上旬 『真宗学』第一二三・一二四合併号、原稿

執筆依頼

・二月上旬 『真宗学科学学生論文集』論文提出依頼

・二月中旬 『真宗学』第一二二号、納入(予定)

・三月上旬 『真宗学』第一二三号、納入(予定)

平成二十一年度の編集委員会は、例年の活動(『真宗学』・

『真宗学科学学生論集』の刊行)に加え、『真宗学』の寄贈・販売にも精力的に取り組みました。今年度より、初の試みとしてインターネットの真宗学会のホームページに『真宗学』の広告を掲載いたしましたところ、多数のお問い合わせをいただき、寄贈・販売冊数は一〇〇冊を越えました。これも、インターネット販売に大きくご尽力くださいました諸先生方、並びにホームページ委員、庶務委員の皆様のおかげであります。また、各誌の執筆・配布等につきましては、諸先生方、大学院生の方々のご協力をいただきました。重ねて、厚く御礼申し上げます。

(報告 武末直也)

親睦委員会報告

平成二十一年度

金子みすゞの故郷仙崎と山陰妙好人探訪の旅

【日程】

九月十日（木）

〔R〕京都駅→〔R〕新山口駅→長門湯本→〔R〕仙崎駅→みすゞ通り→みすゞ記念館→遍照寺→向岸寺→秋たなかホテル

九月十一日（金）

宿泊地→秋焼き工房→高杉晋作誕生地→松陰神社・吉田松陰歴史館→津和野観光・昼食→光現寺（有福）→温泉津・輝雲荘

九月十二日（土）

宿泊地→安楽寺（石見）→石見銀山観光・昼食→〔R〕広島駅→〔R〕京都駅

へ九月十日

〔R〕京都駅に8時集合。参加者二六名中十六名が揃い、新山口駅へと向かう。定刻どおり新山口駅に到着し、現地集合であった七名が合流し二三名でバス移動となる。移動の車中、はじめに親睦委員の龍溪先生よりご挨拶を頂き、先生に用意して頂いた金子みすゞさんについてのレジュメを配布し、予習する。そして、バスガイドさんにとっても詳しい山口県のガイドをして頂く。県庁所在地は山口市であるが、栄えているのは下関市であるということがとても印象的であり、また、都市化し発展す

ることだけを良しとしないのが山口市であり、山口市らしいさを大切にしているということを教えて下さった。山口県の詳しいガイドに聞き入っているうちに、長門湯本に到着。昼食を頂く。わかめが名産らしく、わかめを練りこんだうどんも美味しく頂いた。腹ごしらえをしたところで、再びバスに乗り移動し、いよいよ研修が始まった。はじめに降り立ったのは、〔R〕山陰本線仙崎駅である。金子みすゞさんという方は、仙崎で生まれ育ち、大正時代後期に彗星のようにあらわれ「若き童謡詩人の中の巨星」と称賛されたが、26歳という若さでこの世を去ったためいつしか「幻の童謡詩人」と語り継がれるようになった。素朴であたたかい雰囲気駅の駅舎で構内には、金子みすゞさんの様々なパネルが展示されていた。駅前にて集合写真を撮り、駅から北にまっすぐ伸びる「みすゞ通り」を行く。通りには、みすゞさんの詩を門前に掲げた家々が並び、町中がみすゞさん一色である。少し歩くと「金子みすゞ記念館」に到着し、記念館の中には、みすゞさんが育った家が復元されていたり、たくさん作品と生涯を中心にした展示があった。中には、みすゞさんの詩が響いて聞こえてくる椅子があったり、ある場所に手をかざすと光とともに詩が掌に写し出されるような仕掛けがあり、驚かされ楽しみながら鑑賞できた。詩を書かれたみすゞさんのあたたかい人がらを感じることが出来たような気がした。あまり大きいとは言えない記念館であったが、中はゆつくりとした時間が流れており、展示されている一つ一つの詩を鑑賞しているとおつという間に時間が過ぎていた。そして、まだまだ

名残り惜しい気持ちで後に一行はみずゞさん縁の寺院である遍照寺に向かう。寺院に着くと若いご住職が迎えてくださった。まず、讃仏偈をお勤めする。その後、ご住職より法話を頂いた。そこでみずゞさんの詩の「こころ」を紹介された。父母、祖父母など家族の愛情と阿弥陀さまのこころに気付かせて頂き、素直に受け止めていくことの大切さを感じた。そして、境内に建てられたみずゞさんのお墓に手を合わせ、みずゞさん縁の地を後にした。移動中バスの中から景色を眺めると、真っ青の海と空が広がり、緑の山々も聳え立ち、目の前に自然が溢れていた。多くの人に詩を通して感動を与えたみずゞさんがこの地で生きておられたと思うと感慨深かった。次は青海島の高台にある浄土宗の寺院・向岸寺を参拝した。鯨の位牌と過去帳が残ることで知られており、捕獲した鯨それぞれに戒名をつけられている。浄土宗の寺院は、浄土真宗の寺院と雰囲気も異なり、木魚が並んで置かれていたり、目に映るものが新鮮であった。龍溪先生を導師として重誓偈をお勤めし、ご住職にお話を頂いた。海に生きるすべてのいのちに対してと鯨の霊を慰める「鯨回向」が毎年一回行われていることなどを丁寧に教えて下さった。また、「鯨鮠過去帖」という一七一九年から一八三七年まで記された鯨の過去帳を見せて貰い、鯨を供養しないではいられなかった土地の人々の思いが伝わってきた。最後に、母鯨と子鯨がいつでも会えるようにという人間の願いから海に向かって建てられた鯨墓に案内してもらった。

一日目の研修が終わり、宿泊地である萩に移動する。旅館に

到着し、広島から先輩一人が合流した。そして、夕食の場でサプライズのプレゼントが届いた。萩出身の武田先生より今まで見たこともないような豪華な舟盛りの差し入れである。先生方の挨拶、学生の自己紹介の時間を持ちながら美味しいご飯やお酒を頂くことが出来、緊張が一気にほぐれていったように感じた。夕食が終わり、京都から先輩二人が合流し、全二十六名が揃った。そして、夜遅くまで、一日の疲れを癒すため、親睦を深めるため、次の日の活力を養うため、お酒の席は続いた。

〈九月十一日〉

山口県の萩の名産品である萩焼きの工房に伺う。四十時間火をくべて焼かれているということや萩焼きの特色を詳しく説明して下さり、その後萩焼きのお店に入ると無性に欲しくなった。バスで移動し、次は明治維新を導いた著名な人の町である国指定史跡の萩城下町を観光する。高杉晋作、木戸孝允誕生の地や高杉晋作と伊藤博文が幼い頃に勉学に励まれた寺院を通ったり、ポカポカとした青空のもと散策を楽しんだ。明治維新の時代や歴史の好きな諸先輩方は目をキラキラさせ食い入るように見ておられた。松蔭神社、吉田松陰歴史館へ赴いた後、小京都と言われる津和野へ行き、昼食前に少し町並みを歩いた。ごみ一つ落ちていない綺麗な道の端には水路があり、その中にたくさん大きな鯉がいた。歴史ある建造物が立ち並び風情があった。

昼食を頂いて一路妙好人善太郎さんゆかりの寺院である有福の光現寺へ行く。深川先生を導師として重誓偈をお勤めする。

ご住職によって、パネルで善太郎さんの紹介を頂いた。善太郎さんとは、江戸時代末期に有福でお生まれになったお百姓さんである。三一から四二歳の間に四人の娘さんを亡くされたことが機縁となってお寺へ足を運ばれるようになり仏法に照らされて生きる生活が始まったという。善太郎さんの、全生活を教えを聞く耳にして、真摯に聞法されたことがわかった。本堂内にある善太郎さん直筆の御文章や善太郎さんについて書かれた数々の書物、「妙好人善太郎碑」などの展示物を拝見しながら、坊守さんや前坊守さんも出てきて下さり、善太郎餅（美味しい草もち）やお茶やコーヒーで手厚いおもてなしをして頂いた。お寺の前で記念写真を撮り、宿へ向かった。宿泊した温泉津は、名前の通り温泉町で、外湯もあり、それぞれに空き時間を使って入浴しに行った。旅行二日目で少し疲れた体は心身ともに癒された。

（九月十二日）

最終日、朝食後すぐにバスに乗り、その日最初の目的地、妙好人浅原才市さん縁の寺院である安楽寺に向かった。十五分まで到着。重誓偈のお勤めの後、ご住職より才市さんの冊子やレジュメを配布された上で法話をして頂いた。浅原才市さんは、お父さんの亡くなった後、熱心に求道されお念仏を喜ばれた方である。その喜びはたくさんの詩（「口あい」としてノートに清書され残された。ノートは七十冊、歌われた詩は一万首にも及ぶ。展示されている詩を読んでいると才市さんの世界に引き込まれる。浄土真宗の教えを真つ直ぐに受け止められ心のままに

表現されていた。また、才市さんの人間性が表れた頭に二本の角を生やした肖像画はとても印象的であった。そして、記念撮影をして、安楽寺を後にした。研修旅行最後の工程である世界遺産石見銀山を観光する。雨が降る中での観光であったが、二年前に世界遺産に登録されたばかりということで見光客も多く賑やかであった。最終日、天候には見舞われなかったものの特にハプニングもなく順調に旅路を進めることができた。すべての日程が終了し、広島駅へと向かった。

今回は、新型インフルエンザが流行の中、旅行中体調不良の方も出ず、最後まで無事に遂行できたことが何より良かったことです。日本旅行の千葉さん、親睦委員の龍溪先生には、お忙しい中時間を取って頂き、何度となく無理を聞き入れて頂いて三日間で四つの寺院と研修、観光と盛り沢山で大変充実した旅行となりました。さまざまな細かい配慮もして頂いたこと感謝致します。

また、親睦委員の大辻さん、楠さん、南條さん、橋口さん、廣谷さんの広報のおかげで近年中では多い二六名という参加者を募ることが出来ました。親睦・研修旅行として、日頃接する機会が少ない方々ともゆつくりとお話する時間があり、親睦を深めることが出来たように思います。また、先生方に九名参加して頂いたことで学生にとっては研修に加え、たくさんの学びを頂きました。

最後になりましたが、この旅行に参加してくださった大田先生、ヒロタ先生、深川先生、高田先生、那須先生、武田先生、

吾勝先生、堀先生、大学院生、学部生の皆さま、そして旅行先でお世話になったすべての方々に感謝の意を表したいと思います。行き届かないところも多く、ご迷惑もたくさんお掛けしたことで存じますが、皆さんのおかげで大変有意義な研修旅行になりました。本当に有難うございました。

(報告者 藤井顕子)

研究委員会報告

◇第一回卒業論文説明会

期日 平成二十一年六月九日(火)

会場 龍谷大学大宮学舎 清和館三階大ホール

卒業論文の説明 平井 幸太郎(大学院・D3)

体験談 武末 直也(大学院・M1)

谷 實照(大学院・M1)

◇真宗学会研究発表会

期日 平成二十一年七月二日(木)

会場 龍谷大学大宮学舎 清和館三階大ホール

発表者および発表題目

①『論註』における聞名思想と仏身論の関係考

田中 無量(大学院・D2)

②親鸞著作における『浄土三経往生文類』の位置

山崎 淳大(大学院・D2)

③『安楽集』における他力の一考察

野村 淳爾(大学院・D3)

④「タノム」考―国語学的考察をめぐる―

能美 潤史(大学院・D3)

⑤存覚上人における来迎思想

平井 幸太郎(大学院・D3)

⑥『安楽集』における西方浄土観

入井 公昭(大学院研究生)

◇真宗学科卒業論文中間発表会

期日 平成二十一年十月二十二日(木)

会場 龍谷大学大宮学舎 清和館三階大ホール

発表者および発表題目

①親鸞の生死観についての一考察

―現代人の「いのち」の問題―

稲田 尚丈

②中国語圏における浄土真宗の開教について

―戦前・戦中の開教歴史及び現在の開教における課題―

王 仁興

③蓮如上人における伝道の特徴

―本願寺興隆の背景を中心として―

近石 哲

④親鸞における菩薩観―『入出二門偈』をめぐる―

土井 慶造

⑤親鸞の浄土観

―人間観とのかかわりにおいての考察―

東光真法香

⑥曇鸞教学における空思想の一考察

長宗 博之

⑦ 善導と親鸞の教学に対する一考察

—二種深信を中心として—

平井 孝浩

⑧ 浄土真宗における女人観

藤雄 好華

⑨ 親鸞の悪人正機説の考察

宮 翔

⑩ 真宗から見る自死問題の研究

内手 弘徳

◇ 龍谷大学真宗学会第六十三回大会

期日 平成二十一年十一月十日(火)

会場 龍谷大学大宮学舎

日程

一、研究発表

清和館三階大ホール

① 『浄土三経往生文類』に示される往生

山崎 淳大(大学院・D2)

② 存覚上人における教義とその立場

—教判論・機法論を中心に—

川野 寛(大学院・D2)

③ 真言密教と真宗教学—機と法の問題②—

武田 一真(大学院・D3)

④ 『御文章』と『三部仮名鈔』

能美 潤史(大学院・D3)

⑤ 道綽『安楽集』における「臨終」に対する関心

中平 了悟(個人会員A)

⑥ 真宗教学史における来迎理解とその源泉

井上 見淳(龍谷大学講師)

⑦ 多様化するアメリカ人の宗教観と浄土真宗の伝道

那須 英勝(龍谷大学教授)

二、評議員・理事会清和館三階大ホール

三、記念講演 清和館三階大ホール

テーマ 現代における浄土教の課題

講師 国際日本文化研究センター教授 末木 文美士氏

四、記念撮影 大宮学舎本館前

五、総会 清和館三階大ホール

① 学会長挨拶

② 六角仏教会奨学金の伝達式

③ 議長選出

④ 総会

◇ 第二回卒業論文説明会

期日 平成二十一年十二月三日(木)

会場 龍谷大学大宮学舎 清和館三階大ホール

卒業論文の説明 龍溪 章雄(龍谷大学教授)

体験談 和田 芳樹(大学院・M1)

龍尾 崇(実践真宗学・M1)

皆様の御協力により、無事、本年度の全日程を成功の内に終えさせていただくことが出来ました。誠にありがとうございます。

本年度は、真宗学科卒業論文説明会を二回開催いたしました。

二回とも多くの学部生に参加していただき、説明会を通して学部生に卒業論文の作成方法を正しく理解していただくことが出来たのではないかと思います。

今後も反省点を改善し、良かった点を活かすことを通して、より充実した運営の実現に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(報告 和田 芳樹)

庶務委員会報告

平成二十一年度

・五月 運営協議会后、学費納入依頼などの仕事の引き継ぎ。真宗学会一般会員・大学院生の名簿整理、並びに昨年度までの学費納入状況の確認。学費未納者に対する催促状の作成と発送。

・七月 真宗学会一般会員、及び新入生の名簿整理。

・八月 学費納入依頼状の作成、発送準備、発送。

・十月 第六三回龍谷大学真宗学会大会の案内状の発送準備、発送。

・十一月十日 第六三回龍谷大学真宗学会大会において受付を設置。学費の徴収を行う。

学費・会計について、何かご不明な点・お気付きの点などがございましたらご連絡ください。

(報告 川元恵史)

「真宗学」のバックナンバー第七七号から第一一九・一二〇合併号を御希望の方は、龍谷大学真宗学会合同研究室(〇七五―三四三―三三一)までお申し込み下さい。ただし第八七・八八・八九号は残部がありません。通常号は一冊千円、合併号は一冊三千円です。

龍谷大学真宗学会会計報告

a. 平成20年度決算

(単位：円)

収入の部			
	決算	予算	差額
① 平成19年度繰越金	1,949,113	1,949,113	0
② 学会費	4,822,000	6,605,000	-1,783,000
〔内訳〕			
・個人会員A（正会員）			
一般会員			
5,000×238=1,190,000			
M1回生			
10,000×11=110,000			
M2回生			
10,000×9=90,000			
M3回生以上			
5,000×3=15,000			
D1回生			
15,000×4=60,000			
教員			
5,000×18=90,000			
・個人会員B（学生会員）			
L1回生			
16,000×119=1,904,000			
L2回生以上			
16,000×73=1,168,000			
L5回生以上			
4,000×8=32,000			
L3回生（編転入）			
8,000×17=136,000			
・学会誌販売			
27,000			
③龍谷学会出版助成金	300,000	300,000	0
④利息	1,136	887	249
計	7,072,249	8,855,000	-1,782,751

(単位：円)

支 出 の 部			
	決 算	予 算	差 額
①編集委員会	3,697,945	3,070,000	627,945
・真宗学 (117,118発送費)			
3,540			
・真宗学 (119・120編集・発送費)	3,210,030		
・真宗学編集費	2,780		
・真宗学科学学生論集	381,595		
・雑誌論文目録作成	50,000		
・学会講演テープ編集費	50,000		
②研究委員会	406,884	450,000	-43,116
・大会運営費	288,404		
1. 講師謝礼・交通費・親睦会費	120,000		
2. 弁当・茶菓子・コーヒー代・花代・プログラム作成費・大会事務費	68,404		
3. アルバイト代	100,000		
・深草例会費	70,000		
・大会案内状印刷・発送費	48,480		
③親睦委員会	1,276,000	1,276,000	0
・新入生懇親会費	167,000		
・新入生懇親会費(社)	1,000		
・2回生懇親会費	165,000		
・2回生懇親会費(社)	3,000		
・大学院新入生懇親会費MD	240,000		
・学会研修補助費	700,000		
④庶務委員会	417,310	600,000	-182,690
・通信事務費	9,325		
・納入依頼関係	36,080		
・封筒・振込用紙印刷代	0		
・アルバイト代	120,000		
・合同研究室運営費	51,905		
・インターネット管理費	200,000		
⑤反省会費	100,000	100,000	0
⑥慶弔費	0	100,000	-100,000
⑦予備費	22,337	3,259,000	-3,236,663
計	5,920,476	8,855,000	-2,934,524
次年度繰越金 (収入決算-支出決算)	1,151,773		
計	7,072,249		

a. 平成21年度予算案

(単位：円)

収入の部			
	21年度予算算	20年度予算	差額
①平成20年度繰越金	1,151,773	1,949,113	-797,340
②学会費	5,987,000	6,605,000	-618,000
〔内訳〕			
・個人会員A（正会員）			
一般会員			
$5,000 \times 240 = 1,200,000$			
M1回生			
$10,000 \times 18 = 180,000$			
M2回生			
$10,000 \times 13 = 130,000$			
M3回生以上			
$5,000 \times 6 = 30,000$			
D1回生			
$15,000 \times 5 = 75,000$			
D2回生			
$15,000 \times 3 = 45,000$			
実M1回生			
$15,000 \times 24 = 360,000$			
教員			
$5,000 \times 23 = 115,000$			
・個人会員B（学生会員）			
L1回生			
$16,000 \times 158 = 2,528,000$			
L2回生以上			
$16,000 \times 75 = 1,200,000$			
L3回生（編転入）			
$8,000 \times 13 = 104,000$			
・学会誌販売・寄付等			
20,000			
③龍谷学会出版助成金	300,000	300,000	0
④利息	1,227	887	340
計	7,440,000	8,855,000	-1,415,000

(単位：円)

支 出 の 部			
	21年度予算	20年度予算	差 額
①編集委員会	2,320,000	3,070,000	-750,000
・真宗学(121・122編集・発送費)	1,800,000		
・真宗学編集費	20,000		
・真宗学科学学生論集	400,000		
・雑誌論文目録作成	50,000		
・学会講演編集費	50,000		
②研究委員会	470,000	450,000	20,000
・大会運営費	320,000		
1.講師謝礼	120,000		
2.事務諸経費	100,000		
3.アルバイト代	100,000		
・深草例会費	70,000		
・卒論指導関連経費	20,000		
・大会案内状印刷・発送費	60,000		
③親睦委員会	909,000	1,216,000	-307,000
・教育補助・懇親費(1回生)	158,000		
・教育補助・懇親費(2回生)	165,000		
・教育補助・懇親費(大学院)	186,000		
・学会研修補助費	400,000		
④庶務委員会	890,000	600,000	290,000
・通信事務費	50,000		
・納入依頼関係	50,000		
・封筒・振込用紙印刷代	50,000		
・アルバイト代	120,000		
・合同研究室運営費	120,000		
・インターネット管理費	500,000		
⑤反省会費	100,000	100,000	0
⑥予備費	2,751,000	3,319,000	-568,000
小計	7,440,000	8,755,000	-1,315,000

龍谷大学真宗学会会則

- 第一条 (名称及び事務所) 本会は龍谷大学真宗学会 (Research Association of Shin Buddhism) と称し、事務所を龍谷大学真宗学研究室におく。
- 第二条 (目的) 本会は真宗学の研究教育の発展及び會員相互の親睦をはかるをもって目的とする。
- 第三条 (事業) 本会は前条の目的を達成するために下の事業を行う。
- 一、學術大会
- 二、機関誌「真宗学」(Journal of Studies in Shin Buddhism) の発行
- 三、その他必要な事業
- 第四条 (會員) 本会は下記の會員で組織する。
- 一、名譽會員 本会に功績のあつた人の中から、理事会がこれを推薦し、總會で承認する。
- 二、個人會員 A 龍谷大学真宗学担当の専任教員、文学研究科真宗学専攻並びに実践真宗学研究科実践真宗学専攻在籍の大学院生、及び本会の主旨に賛同するもの。
- 普通會員 B 龍谷大学文学部の真宗学専攻の学生。
- 三、個人會員 B (学生会員)
- 四、個人會員 C (団体會員) 真宗研究を主目的とする大学、短期大学及びそれに準ずる学校、學術団体並びに本会の主旨に賛同する団体。
- すべての會員は第三条に定める事業に参加し、本会の刊行物の配布を受けることができる。また、普通會員のうち大学院修士課程修了以上の學歷、もしくは同等の學識を有する研究者は、學術大会及び機関誌においてその研究を発表することができる。なお、研究発表・論文投稿

に關しては、別にこれを定める。

- 第五条 (役員) 本会には下記の役員をおく。
- 一、會長 一名 理事の中から互選し、本会を代表して会務を統理する。
- 二、副會長 一名 理事の中から會長が任命する。副會長は會長不在の時、會長の職務を代行する。
- 三、理事 若干名 評議員の中から互選する。理事は理事会を組織し、会務を処理する。
- 四、評議員 若干名 會員の中から、總會において選出する。評議員会は評議員会を組織し、特に重要な会務を審議する。
- 五、監査委員 二名 會長が理事、評議員の中から委嘱し、會計の監査を行う。
- 六、編集委員 若干名 會長が理事、評議員の中から委嘱し、機関誌「真宗学」の編集を行う。
- 役員の任期は、二ケ年とする。但し重任を妨げたい。
- 第六条 (顧問・参与) 本会に顧問及び参与をおくことができる。
- 第七条 (運営) 本会の事務的な運営のために、運営協議会を設ける。運営協議会の規定は別に定める。
- 第八条 (總會) 會員の三分の一以上の要請及び理事会の召集により總會を開催することができる。審議決定は出席者の過半数以上の承認を要する。
- 第九条 (經費) 本会の經費は會費及び寄付金、その他の収入による。
- 第十条 (會費) 會員は本会維持のため個人會員 A は年額五千円その他は年額四千円の會費を納めるものとする。(但し一九九九年(平成十一年)度より)
- 第十一条 (会則変更) 本会則の変更は、評議員の議を

経たのち、総会の決議を得なければならぬ。
第十二条(年度) 本会の年度は毎年四月一日に始まり、
翌三月三十一日に終わる。

- 附則① 本会則は一九八八年(昭和六十三年)十一月二十
二日の大会において改正承認されたものである。
② 会費の改定は一九八九年(平成元年)十一月二十
一日の大会において改正承認されたものである。
③ 本会則は二〇〇八年(平成二十年)十一月十一日
の大会において改正承認され、二〇〇九年(平成
二十一年)四月一日から施行される。ただし、第
五条(役員)二項の副会長については、二〇〇八
年(平成二十年)十一月十一日の大会終了をもつ
て適用される。

龍谷大学真宗学会運営協議会規定

第一条 (名称) 本会は龍谷大学真宗学会運営協議会と称する。

第二条 (目的) 本会は龍谷大学真宗学会々則に基づき学会の運営に関する諸事項を審議・決定し、実務を担当する。

第三条 (構成員) 本会の構成員は下記の通りとする。

- 第四條
- 第一項 本会には審議・決定機関としての協議会と執行機関としての委員会を設ける。
- 第二項 協議会は原則として、前条の全構成員によつて組織する。但し必要に応じて左のごとき分科協議会を設けることができる。
- (イ) 大学院協議会
- (ロ) 学部協議会

- 第三項 分科協議会の決定は協議会の承認を得なければ執行することができない。
- 第四項 委員会は研究・親睦・編集・庶務の四部門とし、それぞれ専任教員・大学院幹事・学部幹事各一名以上をもつて組織する。
- 第五項 各委員会の委員長は大学院幹事より議長が下記の通り任命する。

- (イ) 研究委員長 一名
- (ロ) 親睦委員長 一名

第五條

- (イ) 編集委員長 一名
- (ロ) 庶務委員長 一名
- (イ) (委員会の業務内容)
- 研究会の業務内容

- (イ) 大会・例会等主として研究に関する事項
- (ロ) 親睦委員会……旅行、歓送迎会等主として親睦に関する事項
- (ハ) 編集委員会……学会誌の編集等主として編集に関する事項
- (ニ) 庶務委員会……会計及び庶務全般に関する事項

第六條

第六項 (議長・副議長・書記)

協議会の議長一名・副議長二名以内は幹事の互選とする。

第七條

第二項 協議会の書記三名以内は議長より任命される。

(経費) 本会の経費は真宗学会が負担する。

第八條

(年度) 本会の年度は真宗学会の年度に準ずる。

(規定の変更) 本規定は協議会が発議し、真宗学会大会の決議により変更することができる。

第九條

付則

① 本規定は一九九二年(平成四年)十一月二十四日の大会において改正承認されたものである。

② 本規定は二〇〇八年(平成二十年)十一月十一日の大会において改正承認され、二〇〇九年(平成二十一年)四月一日から施行される。

編 集 後 記

『真宗学』第一二二号をお届けします。

本号には、文学部准教授の井上善幸先生、同講師の高田文英先生、国際文化学部教授の嵩満也先生の研究論文と、大学院文学研究科博士課程二回生の山崎淳大君の研究論文、さらには真宗学会第六三回大会（平成二十一年一月一〇日開催）で行われた大谷大学名誉教授の安富信哉先生の記念講演を掲載させていただきました。

井上先生は、真宗学の教員のなかにおいても、その学問的関心はきわめて多方面にわたっています。天親が善男子、善女人の行として示した五念門について、親鸞の明かした『入出二門偈』の五念門の行者はいかなるものか、について論じられたものです。高田先生は、今年度から大学に着任された最若手の教員です。『略論安楽浄土義』の思想背景、ならびに真宗教義においても大いに問題となる仏智疑惑の課題について論じられています。嵩先生は国際文化学部長の要職を務められている先生です。多忙な中、真宗のみならず今日の世界的問題で

ある環境論について果敢に論じられています。また山崎君の論文は近時の問題となっている往生について、今までとは異なった視点から考察を加えたものです。安富先生は大谷大学における親鸞研究の学風の特徴を如実にあらわす内容の講演をしていただきました。ここに誌上を借りて、各先生に謹んでお礼を申し上げます。

今年度は、関係各位のご協力により、編集作業をほぼ予定通り進めることができました。謝してお礼申し上げます。

二〇〇九年度は真宗学にとって大きな変化の年でした。それは真宗学として長年切望されながらも、容易に実現することができなかつた真宗実践に関する大学院が開設されたからです。新しい大学院の設置は、真宗学の必然的展開であることは言うまでもありませんが、同時に時代的要請でもあります。今後、真宗の学問研究と実践学とともに緊張関係を持ちつつ時機相応の真宗学として進化、発展することを切に願うものです。

(川添 泰信記)

平成二十二年三月十日印刷
平成二十二年三月十五日発行

編集者 真宗学
編集委員

（禁 載）
転 発行者 大田利生
真宗学会長

印刷所 (株) 図書同朋舎

〒601-8622
京都市下京区七条大宮

発行所 龍谷大学真宗学
電話 (代) 075-334-3331番
振替 012001618746番

京都市下京区花屋町通西洞院西入
取次店 永田文昌堂
振替 01200141936番

CONTENTS

- The Subject of the Practice of the Five Gates of Mindfulness
(*gonenmon*) in the *Hymn of the Two Gateways of Entrance
and Emergence (Nyūshutsu nimonge)*Yoshiyuki Inoue (1)
- Doctrinal Background of the *Ryakuron Anrakujōdogi*
(A Concise Commentary on the Pure Land of Peace and
Bliss): Focusing on the Concept of Doubting the Buddha's
Wisdom (*butchi giwaku*)Bunei Takada (22)
- The Concept of *Ōjō* (Birth in the Pure Land) in *A Collection
of Passages on the Types of Birth in the Three Pure Land
Sutras (Jōdo sangyō ōjōmonrui)*Jundai Yamasaki (45)
- Shin Buddhist Ecology: Grounded upon Tension between
the Actual and IdealMistuya Dake (1)
- Commemorative Lecture
The Dynamics of Faith (*shin*)Shinya Yasutomi (14)

THE
SHINSHUGAKU
JOURNAL
OF
STUDIES IN SHIN BUDDHISM

Nos. 122

March/2010

SHINSHŪ GAKKAI
Research Association of Shin Buddhism
Ryūkoku University
Shichijō Ōmiya, Shimogyō-ku
Kyoto, Japan